

～中高生の自転車運転中の事故が多い～

現状

- ・中学生・高校生は通学などで自転車を利用することが多い

その一方で

- ・ 交通ルールの理解不足
- ・ スマホを見ながらの運転
- ・ イヤホンの装着、無灯火走行



理想的な状態

- ・ 中高生が交通ルールと危険性を正しく理解している
- ・ 自転車を「車両」として認識し、安全意識をもって運転している
- ・ 事故が減少し、安心して通学できる地域環境が実現できる

事故が起こる原因はなにか

主な原因

- ・ **交通ルール**の理解不足
→ 自転車も「車両」であるという認識が弱い
- ・ **危険運転**の状態化
→ スマホ操作、イヤホン着用、並走などが常習化
- ・ **安全教育**の不足
→ 中高生向けの実践的な交通安全教育が少ない
- ・ **周囲の環境**要因
→ 自転車専用レーンが少なく、車や歩行者との接触リスクが高い



問題点の整理

- ・ 事故の危険性を自分事として捉えられていない
- ・ ルール違反が軽視され、事故につながる行為が改善されにくい
- ・ 学校、家庭、地域での安全意識の共有が不十分

事故を減らすための課題



課題①：交通ルールへの理解と意識の向上

- ・ 自転車が「軽車両」であることを正しく理解させる
- ・ 事故の危険性を自分の問題として認識させる必要がある

課題②：危険運転を防ぐ行動の定着

- ・ スマホ操作やイヤホン着用など、日常的に行われている危険行為を減らす
- ・ 正しい運転行動を習慣化させることが重要

課題③：学校・地域全体での安全対策

- ・ 学校だけでなく、家庭や地域と連携した取り組みが不足
- ・ 継続的に安全意識を高める仕組みづくりが求められる

事故を減らすための解決策

①実践的な交通安全教育の実施

- ・ 事故映像や事例を用いた体験型、参加型の授業
- ・ 危険場面を想定したシミュレーション学習

②校則・学校ルールの見直しと徹底

- ・ スマホ、イヤホン使用の明確な禁止
- ・ 定期的な指導、声掛けによる意識づけ

③地域と連携した安全対策

- ・ 警察や自治体と協力した交通安全講習
- ・ 通学路の危険箇所の見直しや情報共有



期待される効果



中高生への効果

- ・ 交通ルールや危険性への理解が深まり、**安全意識が向上**
- ・ 危険運転が減少し、事故防止につながる
- ・ 自転車利用に対する責任感が育つ

学校・地域への効果

- ・ 通学時の事故が減り、安心して暮らせる地域環境が実現
- ・ 学校、家庭、地域が連携することで、継続的な安全対策が可能になる
- ・ 歩行者やドライバーを含めた、地域全体の安全性の向上

まとめ

- ・ 中高生の自転車事故は、通学時の身近で深刻な問題である
- ・ 事故の背景には、交通ルール理解不足や危険運転の習慣化がある
- ・ 事故を減らすためには
「実践的な交通安全教室」「学校、家庭、地域の連携」
が重要

**一人ひとりの意識を
高めることが大事！**

